協働のまちづくり推進計画検討委員会（第３回）会議録

日　　時	平成２２年7月２７日（火）１５：００～１７：２５
場　　所	富里市役所本庁舎３階第３会議室
出席委員	久野直衛委員長，長徳實義副委員長，石井壽惠子委員， 加藤千春委員，小泉喜市郎委員，小林隆夫委員， 長谷正行委員，二上正栄委員，荒野峰之委員，斉藤榮子委員， 鈴木勉委員，髙澤忠彦委員，新井正美委員，榊原孝委員， 長谷川敏彦委員，堀越等委員，森秀樹委員，片貝勝也委員 （欠席２名：大木寿美子委員，竹生勲委員）
アドバイザー	千葉大学法経学部准教授　関谷 昇氏
事 務 局	総務部企画課長，企画課企画調整室長，企画課企画調整室員
説 明 員	富里市商工会（１名） 富里市社会福祉協議会（３名）
傍 聴 者	０名

〔会議次第〕

１　開会

２　委員長あいさつ

３　議　題

（１）市内における協働の現状と課題について（その２）

・富里市商工会

・富里市社会福祉協議会

（２）（仮称）協働のまちづくり推進計画について

・グループワーク

４　その他

（１）その他

５　閉会

〔会議概要〕

	開　会
委員長	会議録確認委員の選出（小林委員，長谷委員）
	（１）市内における協働の現状と課題について（その２） ・富里市商工会
説明員	資料１により説明
委員長	まちづくり・まちおこしの主体は，当然市民だが，同時に最近，商店会の役割が非常に高まっている。商店会をサポートしているのが商工会であり，重要な役割を果たしている。ご説明にあった１２０万歩ウォーキングも市民活動と商工会とのコラボレーションの非常によい例だと思う。
説明員	・富里市社会福祉協議会 資料２により説明
委員	多くの活動をしている中で，特に高齢者の福祉に関して，力を入れて活動されているようだが，社協と警察とのジョイントはあるのか。例えば，高齢者が「オレオレ詐欺」等にかかっているが，活動の中でそのような研修は開催しているのか。
説明員	警察とのジョイントはない。地区によっては，メンバーが防犯パトロール等の活動をされている。富里第一地区社会福祉協議会では，昨年度千葉県警を視察し勉強した。高齢者自身については，老人クラブ等で毎年，警察の方を呼び，講演会を行っているようだが，地区社協としては行っていない。

委員	社協発行の「ささえ愛」に組織が図で示されているが，地区社協と支部の関係がよくわからない。区長になると本人の意思に関わらず，支部長に委嘱される。市民に理解していただくには，地区社協が８つの小学校区で成り立ち，その一つ一つの小学校区の中に各行政区の支部があるというのが，わかるような図になるよう御検討をお願いしたい。
委員	なかなか自分たちの活動を説明する「場」がないとの発言があった。今まで各団体で他の団体に出向き，自分たちの団体についての課題等について話す「場」がなかった。「協働」を広めていくには，各団体・組織に自分たちが出向き，伝えていくのが必要だと思う。
委員長	間違いなく社会福祉協議会の活動は，富里市におけるまちづくり・まちおこしの重要な役割を担っているのだと改めて感じられ，同時に課題の重要さを感じたと思う。活動の重要さに対して，活動の情報発信が十分ではなく，活動の輪の拡大も思うようにいかない。この委員会がこれから取り組んでいく課題そのものではないかと思う。 （２）（仮称）協働のまちづくり推進計画について
事務局	資料３，資料４，参考資料１により説明
委員	班員でない委員が，推進項目を提案している場合もある。班員以外の委員が提案したものも検討するのか。また，検討するのであれば，提案者の想いを聞くことはできないのか。
事務局	班員以外が提案していただいた事項も検討していただくが，シートでは把握できない部分もあると思うので，そのときは提案者に取材していただきたい。まずは，担当班のメンバー分から作業をしていただき，その後班員以外の方の提案分という形

	で進めていただきたい。
委員長	３つの班に分かれているが，別の話をするわけではない。ある程度まとまった段階で発表の機会を設けるので，担当でない部分においても腹案や別の御意見もあると思うので，その機会に検討すればいい。今日は，まず班員の分からはじめましょう。
委員	自分でシートを作っていて，項目は分かれているが，それぞれ関係している。まずは，担当のものを検討していくということでよろしいか。
委員長	３つの項目が，全く独立しているものではない。それぞれ関連性は持っていると思うので，コミュニケーションをとりながら進めていきたい。 ～班に分かれ，グループワーク～
アドバイザー	グループワークをしていく中で，「協働」は，あくまでも手法ということをおさえておいていただきたい。地域を活性化させたい，次世代につないでいきたい，行政と住民との関係を豊かにしたいなどいろいろな思いがある中で「協働」という手法をどのように考えていけるのか。協働の手法が用いられることによって各方面の風通しが良くなったり，連携ができるようになったりすると思う。今後の議論としては，「手法」というのを念頭におきながら，具体的な内容について，いろいろな立場，局面等を想定しながら，こういう環境があると協働がうまく進んでいく，こういう場があるといいというアイディアを出していくのがいいと思う。 ～アイディア提案シートへのコメント～ ○「活動場所の提供」 協働という手法を用いていくための重要な内容の一つ。それぞれ団体ごとに活動されていて，それ自体には興味深いが，別

	の観点から見ると，それぞれが自己完結しているところがある。それはいい部分もあるし，課題として残る部分もある。会員数や担い手不足は，共通しているところであり，地域の中にどう根付かせていくのか，定着させていけるのかについても共通の課題を持っている。これからのまちづくりは，それぞれの団体が自己完結していく時代ではなくなっている。それぞれ得意な部分，抱えている問題があり，それをどう共有しながら考えていけるかどうか。例えば，横につながるための組織が必要となるのであればそういうことも併せて検討していくといいと思う。 ○「市民活動支援室」 　住民が民設でつくるべきなのか，役所内で設置すべきなのか両方事例がある。必要だということであれば，具体的にどう考えていくか。グループの中に職員がいるので，職員の目線ではどのように映っているのか。意見交換しながら，どういう形がいいのか，うまく機能するのかも検討する必要がある。当然資金の問題もあるし，人材の問題もある。現状の中でどこまで可能なのかというのも検討するといいと思う。 ○「情報」 　条例検討委員会でも出てきた問題。市が持っている情報をどう発信していくのか。発信のあり方もある意味，協働の手法を充実させることになる。今は広報紙やホームページなどを通しながら，市の情報が住民に伝わっているが，住民側からすると必要な情報は入ってくるが，そのほかにも個別具体的な情報を幅広く共有したいという声も非常に大きい。現状では，なかなかできていない。情報自体も自己完結しているところがある。それぞれ非常に強い想いを持って活動しているのにつながってこないというジレンマがある。こういう現状がある中で，情報をもっと幅広く共有していくには何が必要なのか議論すべき部分と思う。 ○「まちづくり協議会」 　自治会・区制度の問題。地縁組織はあるが，それ以外に地域

	の住民，企業等で構成する協議会を設置したらどうかというご意見。例えば，小学校区ということを念頭に置きながら，こういう場がどのくらい有効か、どう機能するのか論点の一つかと思う。既存団体は，既存団体でそれぞれの活動がある。これからのまちづくりは，横のつながりが必要になる。横のつながりをどう考えていけばいいのか。制度の問題もあり，場の問題もこの中に含まれてくるところかと思うので，その部分も議論していくことが必要かと思う。 ○「地区の将来像（ビジョン）」 　富里市全体としていろいろな計画がそれぞれの分野で作られているが，地区としての計画。縦割りではなく，横割りの計画で，地区により福祉・子育て・防犯など，それぞれ地区固有の状況がある。地区固有の問題を踏まえ，地区ならではの計画を地域住民が中心となって策定する。分野別ではなく，地区ごとの計画をどう策定していくのか。今回の推進計画の中に入れ込んでいくこともできる。地区ビジョンを立てるという手法もあるので，議論されるといいと思う。 ○ 「公募型補助金制度」 　住民が自分達で企画を立てて市に提案し，それに対し年間事業活動費としていくらか市から出し，市民活動団体を育成していく。市民の活力を活かしていく制度も千葉県内いろいろな自治体で導入されている。市民活動を支援していくような制度や事業が必要かどうか。 ○「富里スイカ塾」 　協働型で立ち上げられるというのが想定され，推進委員会・富里市・それ以外の人も含めてこういった場をつくる。情報を共有していく場としても想定され，イベントを企画していく場，学ぶ場。この中でいろいろな講座を設けていくと想定されていると思う。まちづくり塾という形で，いろいろな自治体で，民間ベースで設けているところもあるし，市と住民が協働しながら作っているところもある。実際の動きを作り出す場でもあり，いろいろな講座，学ぶ場も意味したこういう場をつくる必

	要があるのかどうか。こういう議論も協働の中に含まれていると思う。 　いずれにしても協働は手法なので，いろいろな角度から考えていくことができると思う。組織の問題，制度の問題，具体的な事業の問題，こういう環境・雰囲気があるといいというような感覚レベルの問題。いろいろな側面から協働の形を考えていけると思うので，一つにまとめる必要はなく，いろいろなアイディアを推進計画の中に盛り込んでいけばいいと思う。 　最後に個別具体的なテーマごとに考えたいと思っている方もいらっしゃると思う。例えば，農業問題や子育て支援の問題を考えたいとおっしゃっている方は，その問題をどのように考えていくのか。どういう人が関わってくるのか。それぞれの主体が何をすべきなのかを考えていくといろいろな部分で接点が出てくる。こういう場もなくてはいけないなど，個別具体的なものが見えてくるので，そこから考えていくということでもいいかと思う。最初は戸惑われると思うが，それぞれ出したいことを出していくことで，共通項が出てきたり接点が出てきたりすると思うので，入り口の部分は固定することなく，自由に議論していただいていいと思う。 　「協働」がこの委員会に出された使命になっているので，協働の手法を考えていく中で，どうしてもまちづくりのコンセプトを入れるべきだと委員会として合意形成されれば，そういう策定の仕方もある。縦，横，斜め，いろいろな角度から議論していければいいと思うので，拘束されることなく，いろいろなアイディア出しをされるといいと思う。